

3 整備要領

1-8

△モスビとビーでくびくエ (1)

品動車業計画型

部 品	部 品	品番異工	台 数
スーホ用も遊マエ	3-1 エンジン3-2	000CT00064	72
洗脚のイビモーク	〔1〕 エンジンクーリングシステム3-2	—	計の予
	〔2〕 エアインテークシステム3-4		

< (車AW) 船土くびくエ >

耐震備置

本誌第 (1)

3-2 シャシ3-5

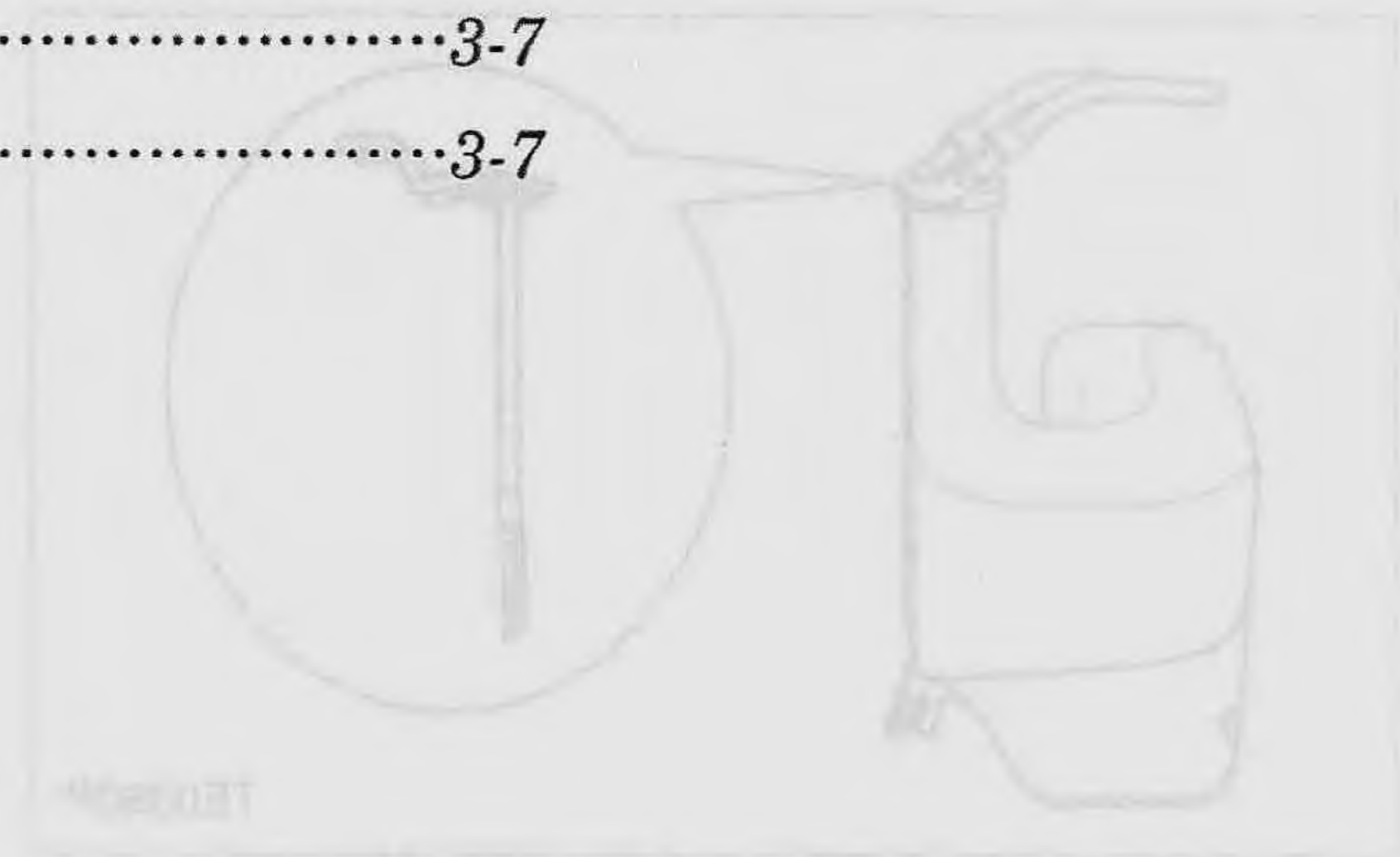
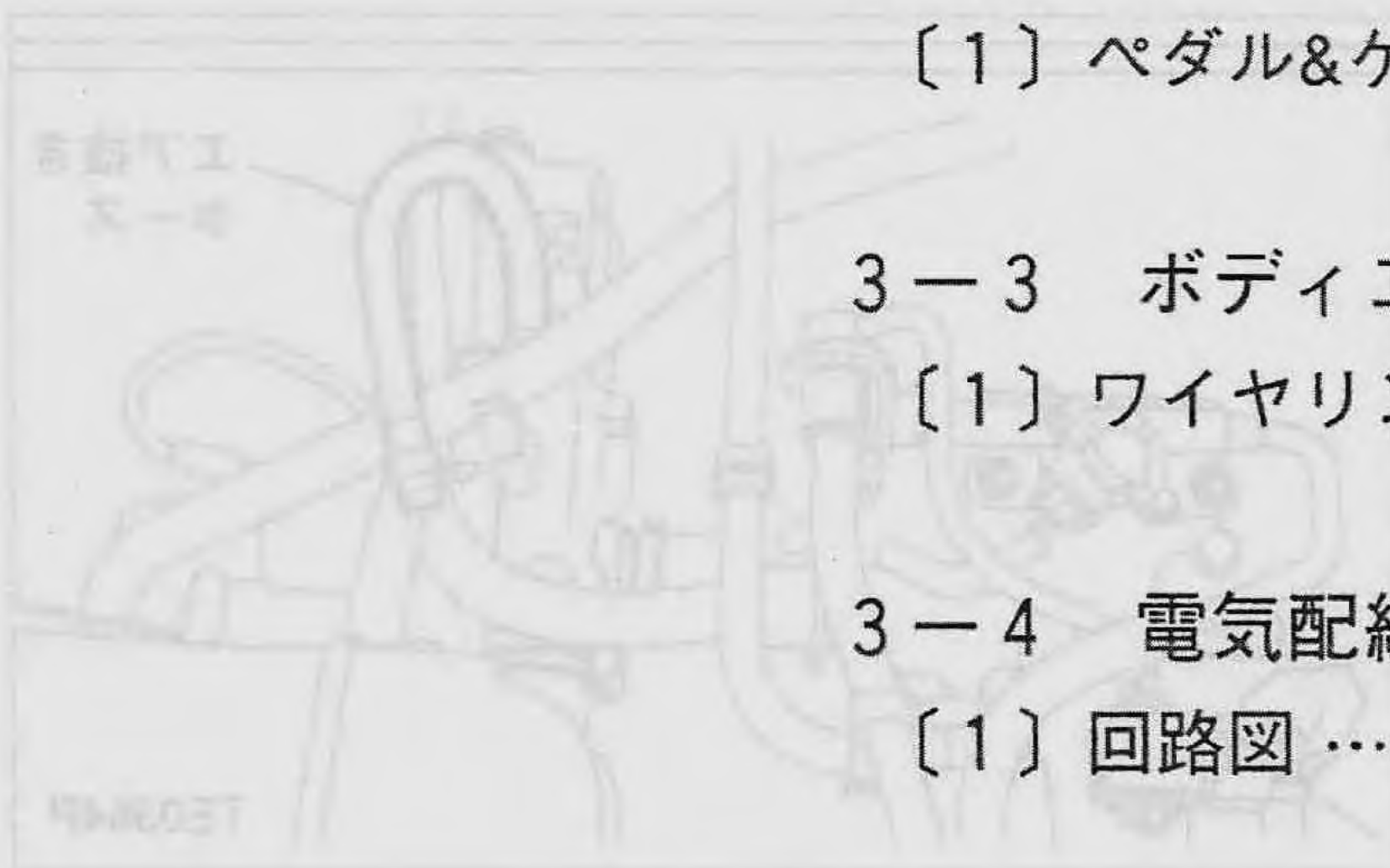
〔1〕 ペダル&ケーブルシステム3-5

3-3 ボディエレクトリカル3-6

〔1〕 ワイヤリングハーネス3-6

3-4 電気配線図集3-7

〔1〕 回路図3-7



< (車TM2-C8) 船土くびくエ >



< 式動一モークエビモ >



で行アコ形影るなコ平本で両車、お船為の量本誌第

< 耐震水船 >

「」 船土船船が平本々両車、1
 動一モークエビモ、(船土くびくエ) スーホ用も遊マエ、2
 T8、」 船土 (耐震水船一モークエビモ) 船土
 水船一モークエビモに付き船船スーホ、」 船船スーホ
 船土船船スーホに付き船船スーホ、」 船船スーホ
 スーホT8用も遊マエ 000CT00064 T2

いも口本船一モークエビモに付き船船スーホに付き船船スーホ
 船船、」 船土 (耐震水船一モークエビモ) 船土
 船土船船スーホに付き船船スーホ、」 船船スーホ

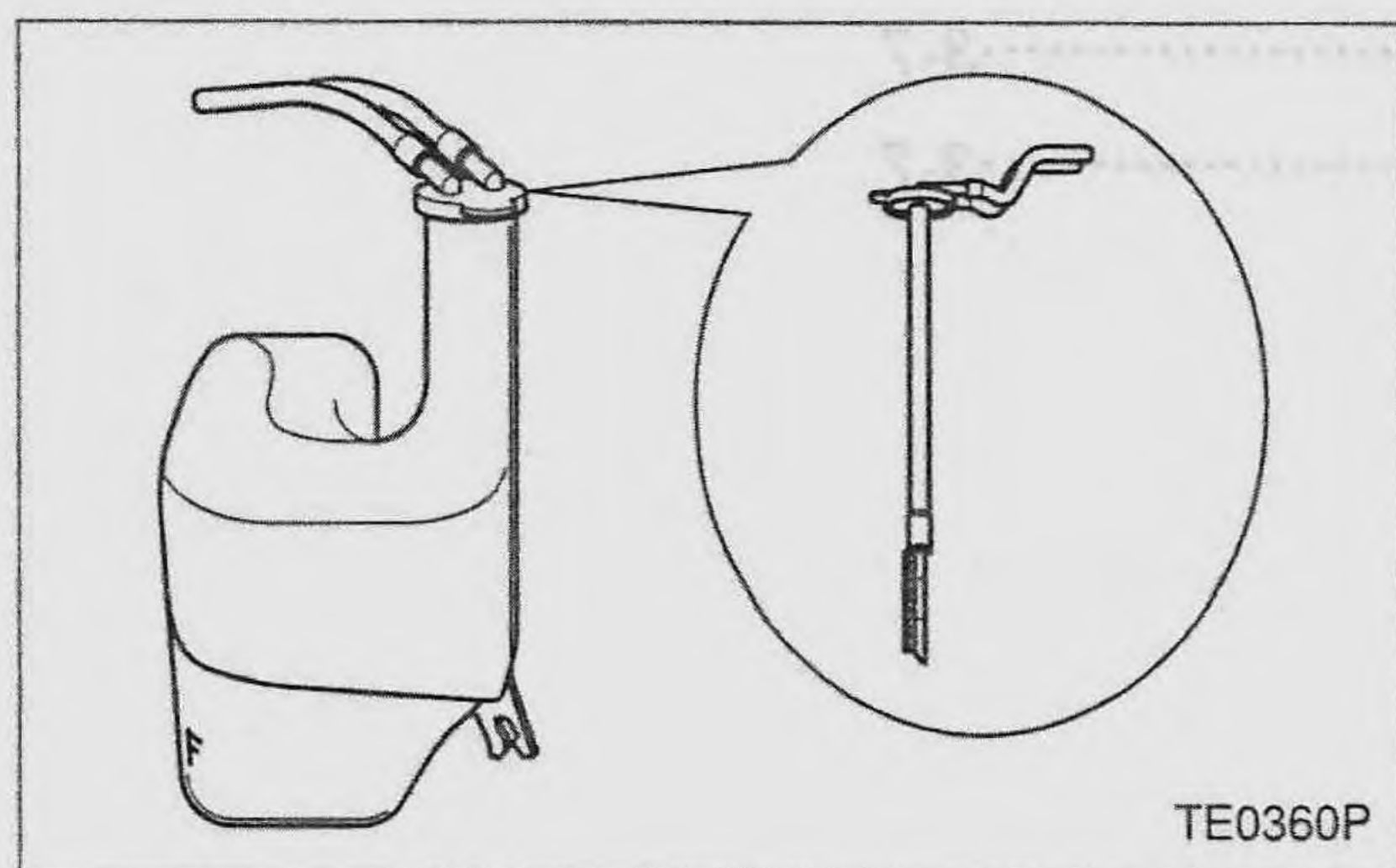
〔1〕 エンジンクーリングシステム
整備作業準備品

区分	工具番号	名 称	用 途
ST	45099TC000	スペシャルツールホース	エア抜き用ホース
その他	—	スバルクーラント	クーラントの補充

整備要領

(1) 冷却水

1. リザーブタンクのキャップを外し、レベルゲージのクーラントをウエス等で一度拭取る。
2. レベルゲージキャップを組付ける。
3. ゲージの目盛りのFULLとLOWの間にクーラントがあるかどうかを確認する。



注意

冷却水量の点検は、車両が水平になる場所にて行う。

＜注水要領＞

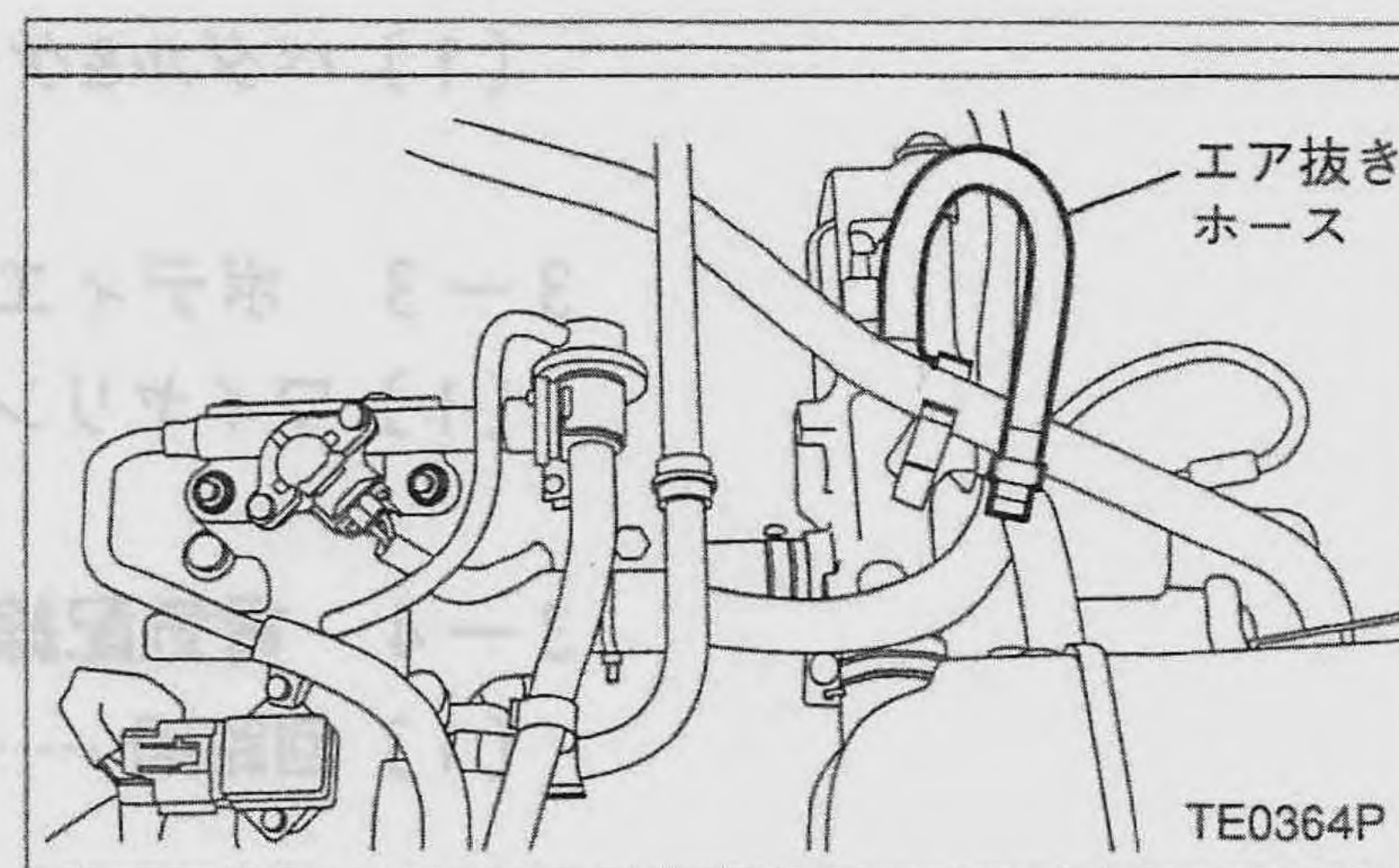
1. 車両を水平な場所に置く。
2. エア抜きホース（エンジン上部、ラジエーター後方部、フロントヒーター部3箇所）を外し、STホースを装着し、ホース端部をラジエーター注水口より高い位置に固定する。

ST 45099TC000 エア抜き用STホース

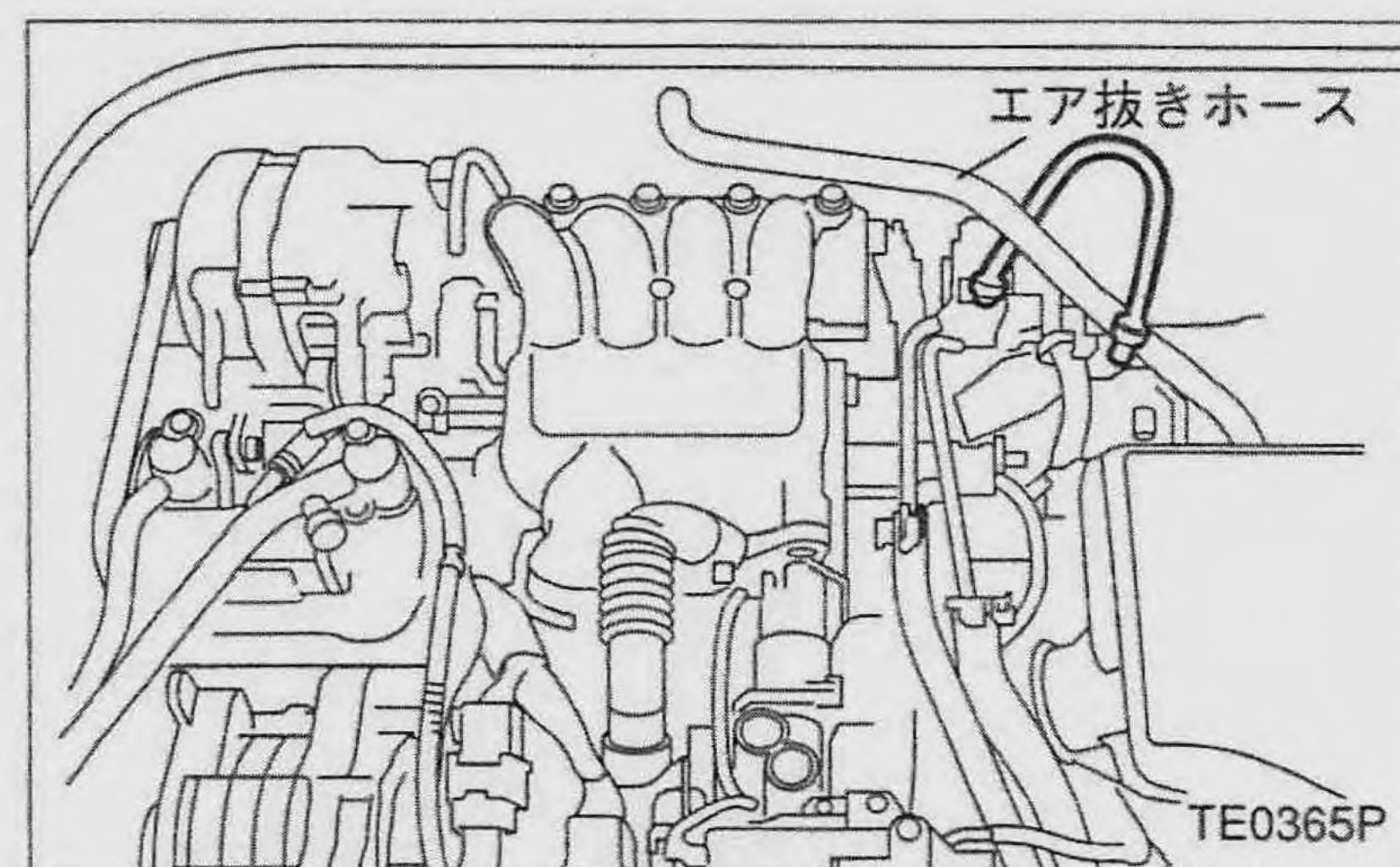
注意

各エア抜きホースの端部がラジエーター注水口より低いと、ラジエーターキャップを開いた際に、冷却水が漏れてくるので注意する。

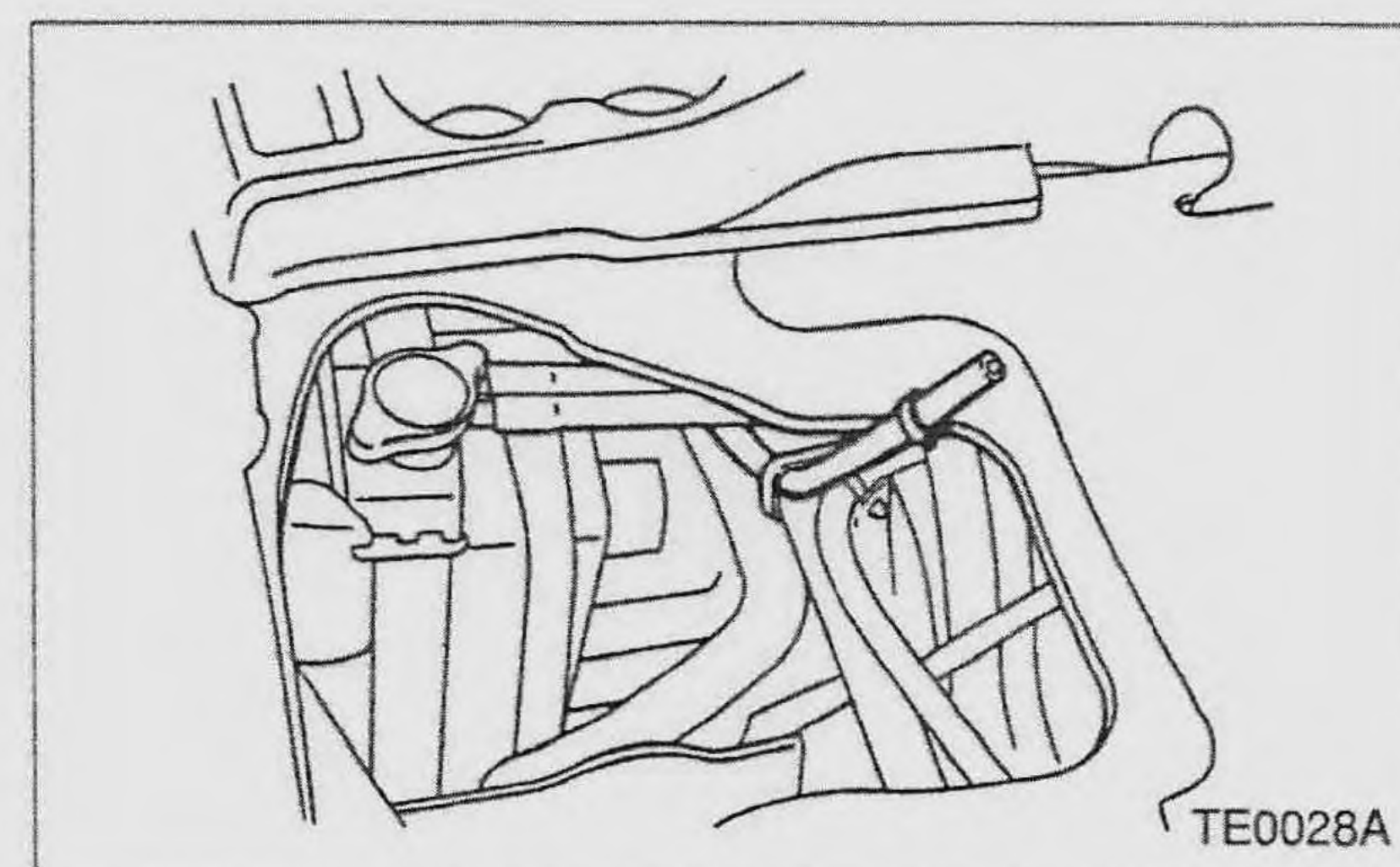
＜エンジン上部（NA車）＞



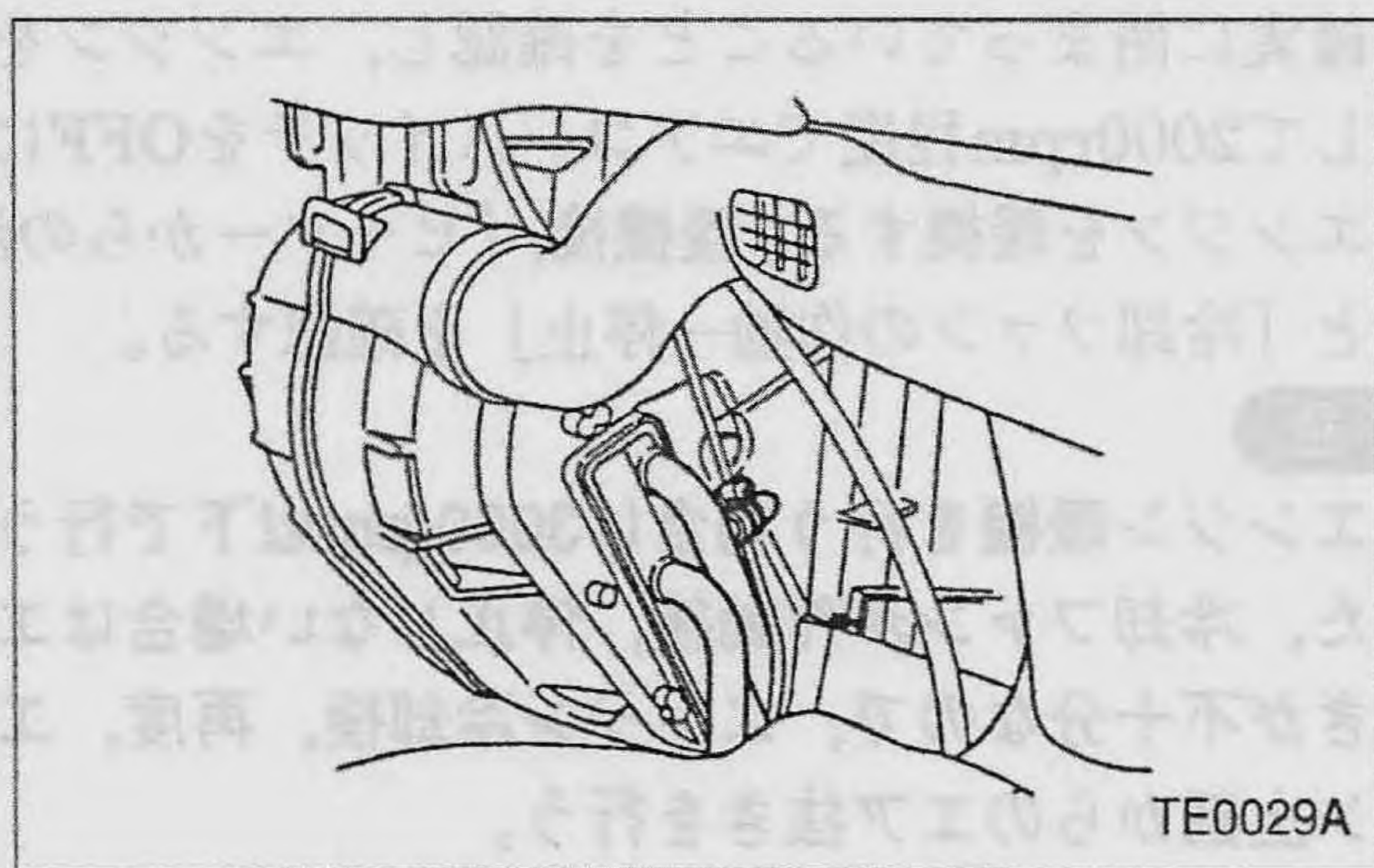
＜エンジン上部（SC-5MT車）＞



＜ラジエーター後方＞



<フロントヒーター右側>

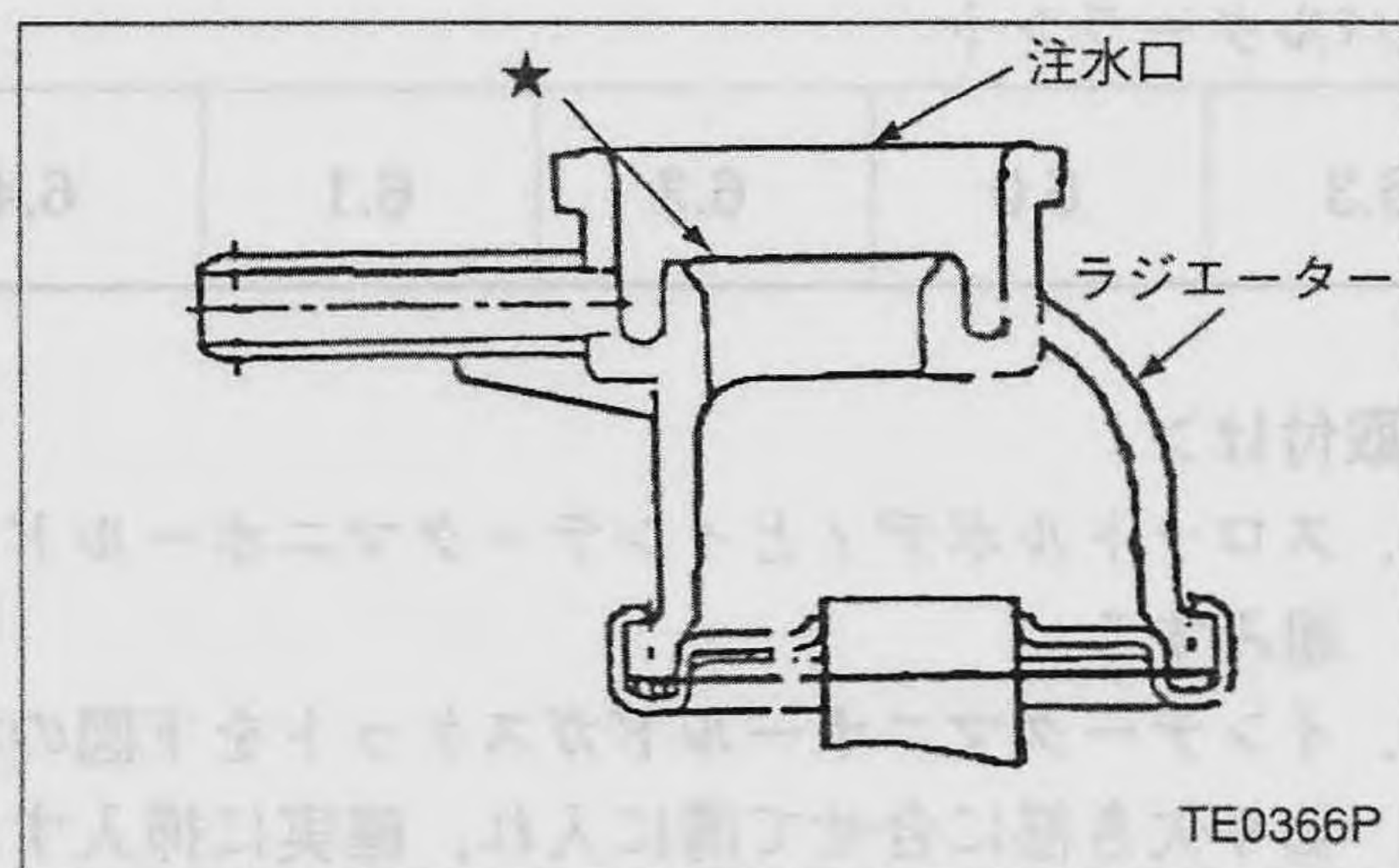


3. ラジエーターキャップを外し，ジョッキなどで注水口から冷却水が満水になるまで注水する。

<エア抜き要領>

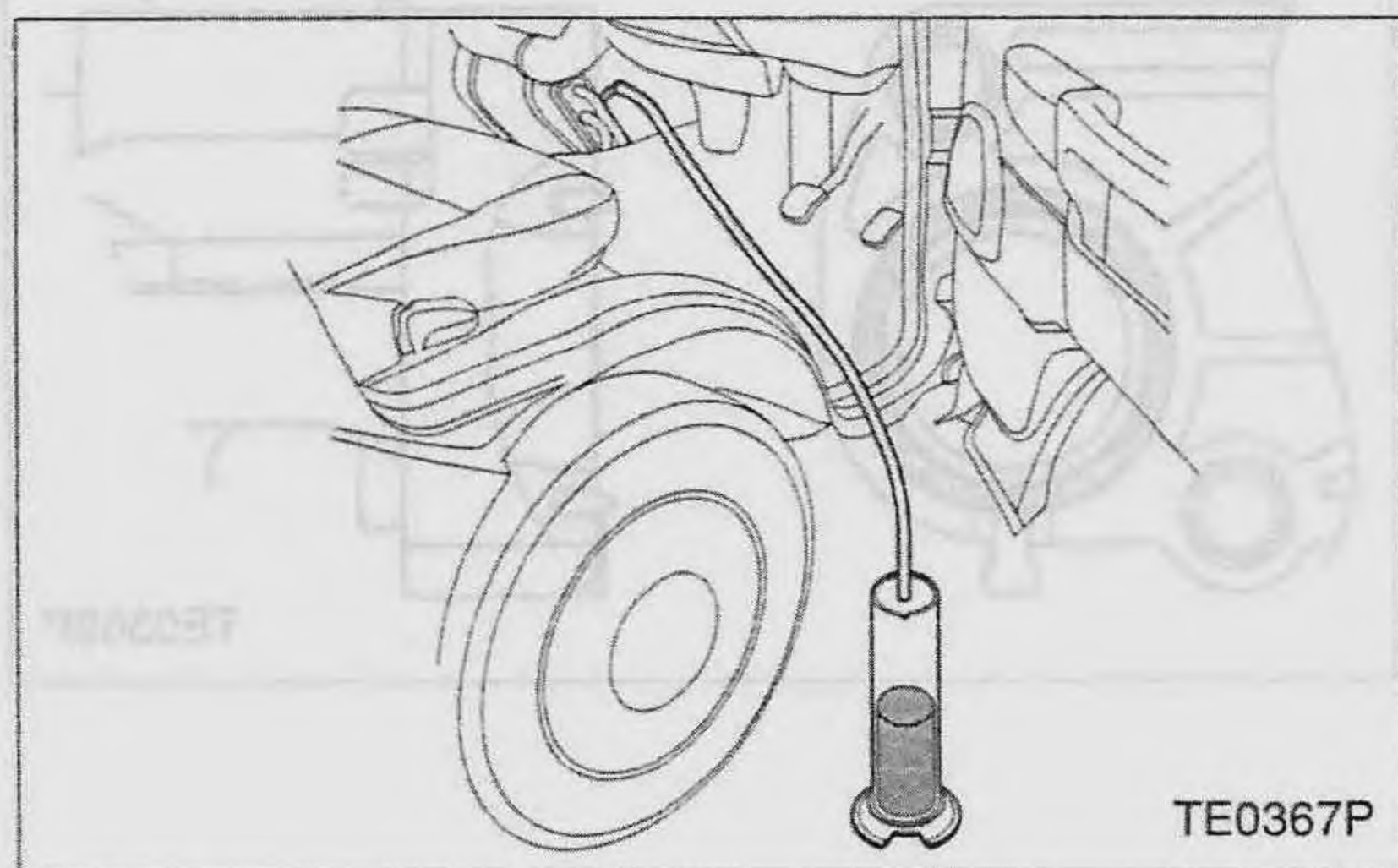
注意

- ・エア抜き作業は，フロントヒーター部→ラジエーター後方部→エンジン上部の順で行う。
- ・エア抜き作業中は，常にラジエーター内の液量に注意し，液面は常に下図（★）を維持する。



★：注入ライン（保持ライン）

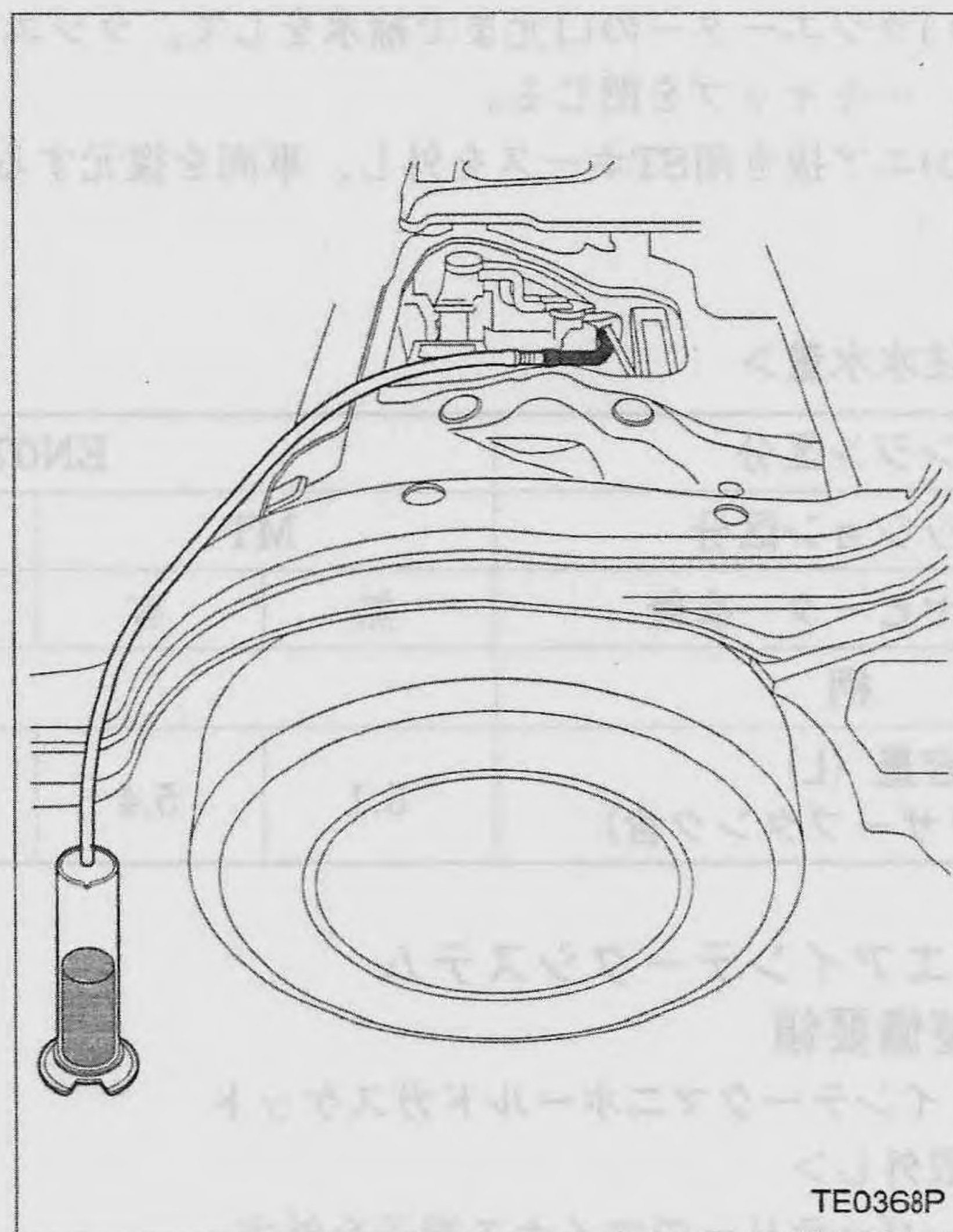
1. フロントヒーター部からのエア抜き
 - 1) エア抜き用STホースをラジエーター注水口より下に向け，受皿に受けながらエア抜きをする。



- 2) ラジエーターの液面が下がってきたら，その分補水する。
 - 3) エア抜き用STホースからエアが出なくなったところで，エア抜き用STホースを外し，ヒーターカバーを装着する。
- ※ジョッキ注水の場合，ヒーターのエア抜きからクーラントは出ません。（注水口よりも高いため）

2. ラジエーター後方部からのエア抜き

- 1) エア抜き用STホースをラジエーター注水口より下に引き出し受皿に受けながらエア抜きをする。



- 2) ラジエーターの液面が下がってきたら，その分補水する。
 - 3) エアが出ない状態が10秒程度連続したらエア抜き用STホースを外して栓をする。
- ## 3. エンジン上部からのエア抜き
- 1) エア抜き用STホースをラジエーター注水口より下に引き出し，受皿に受けながらエア抜きする。
 - 2) ラジエーターの液面が下がってきたら，その分補水をする。
 - 3) エアが出ない状態が10秒程度連続したらエア抜き用STホースの先端に栓をする。
 - 4) ラジエーターキャップを装着し，エンジンを始動して，アイドリング回転で1分程度運転し，冷却回路内のエアをエンジン上部に集める。

エンジン

- 5) エンジンを停止し、3) で仮止めした栓を外し、ラジエーターキャップが熱くないことを確認して、キャップを開ける。

注意

冷却水が溢れることがあるので注意する。

- 7) ラジエーターの液面を確認し、下がっていれば補水する。

- 8) 上記 1), 2) の作業を行ない、エンジン上部のエア抜きを行う。

注意

温水がホースから出ることがあるので注意する。

- 9) ラジエーターの口元まで補水をして、ラジエーターキャップを閉じる。

- 10) エア抜き用STホースを外し、車両を復元する。

<確認作業>

エア抜き用STホースの栓とラジエーターキャップが確実に閉まっていることを確認し、エンジンを始動して2000rpm程度でエアコンスイッチをOFFにしてエンジンを暖機する。暖機後、「ヒーターからの温風」と「冷却ファンの作動→停止」を確認する。

注意

エンジン暖機を行う場合は3000rpm以下で行う。また、冷却ファンが作動後、停止しない場合はエア抜きが不十分なので、エンジン冷却後、再度、エンジン上部からのエア抜きを行う。

<注水水量>

エンジン区分	EN07V				EN07Y			
ミッション区分	MT		AT		MT		AT	
リヤヒーター有無	無	有	無	有	無	有	無	有
銘 柄	スバルクーラント							
全容量 (L) (リザーブタンク含)	5.1	5.4	6.0	6.3	6.0	6.3	6.1	6.4

[2] エアインテークシステム

整備要領

(1) インテークマニホールドガスケット

<取外し>

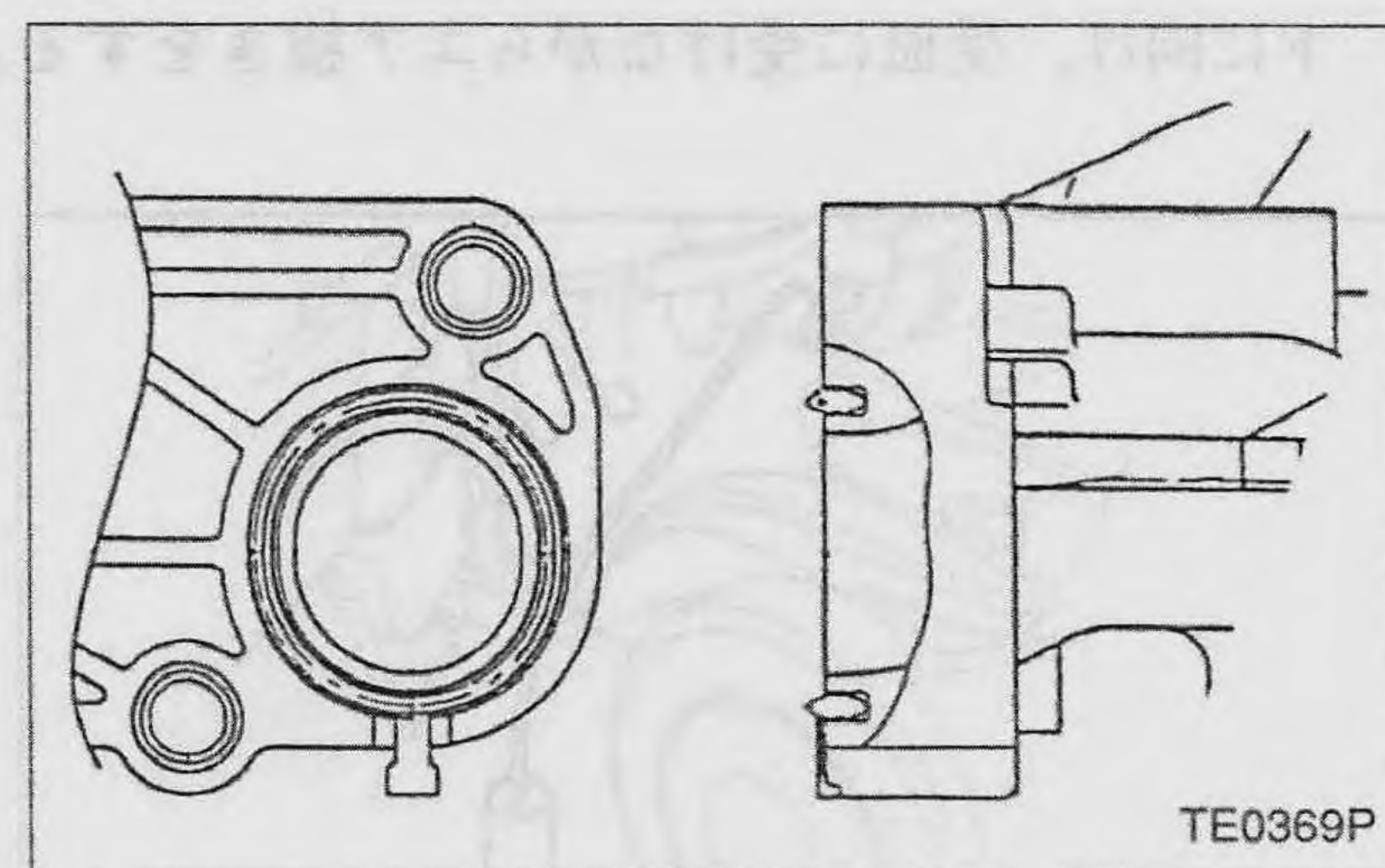
1. バッテリーのマイナス端子を外す。
2. 冷却水を抜く。
3. 冷却水パイプを外す。
4. 各ホース類のマーキングをし、取外す。
5. スロットルボディを取外す。
6. エンジン本体とインテークマニホールドとの結合ボルト・ナットを外し、マニホールドを取外す。
7. インテークマニホールドガスケットを取外す。

<取付け>

1. スロットルボディとインテークマニホールドを仮組みする。
2. インテークマニホールドガスケットを下図の様に切り欠き部に合せて溝に入れ、確実に挿入する。

注意

インテークマニホールドガスケットには組付けの方向性があるので注意する。



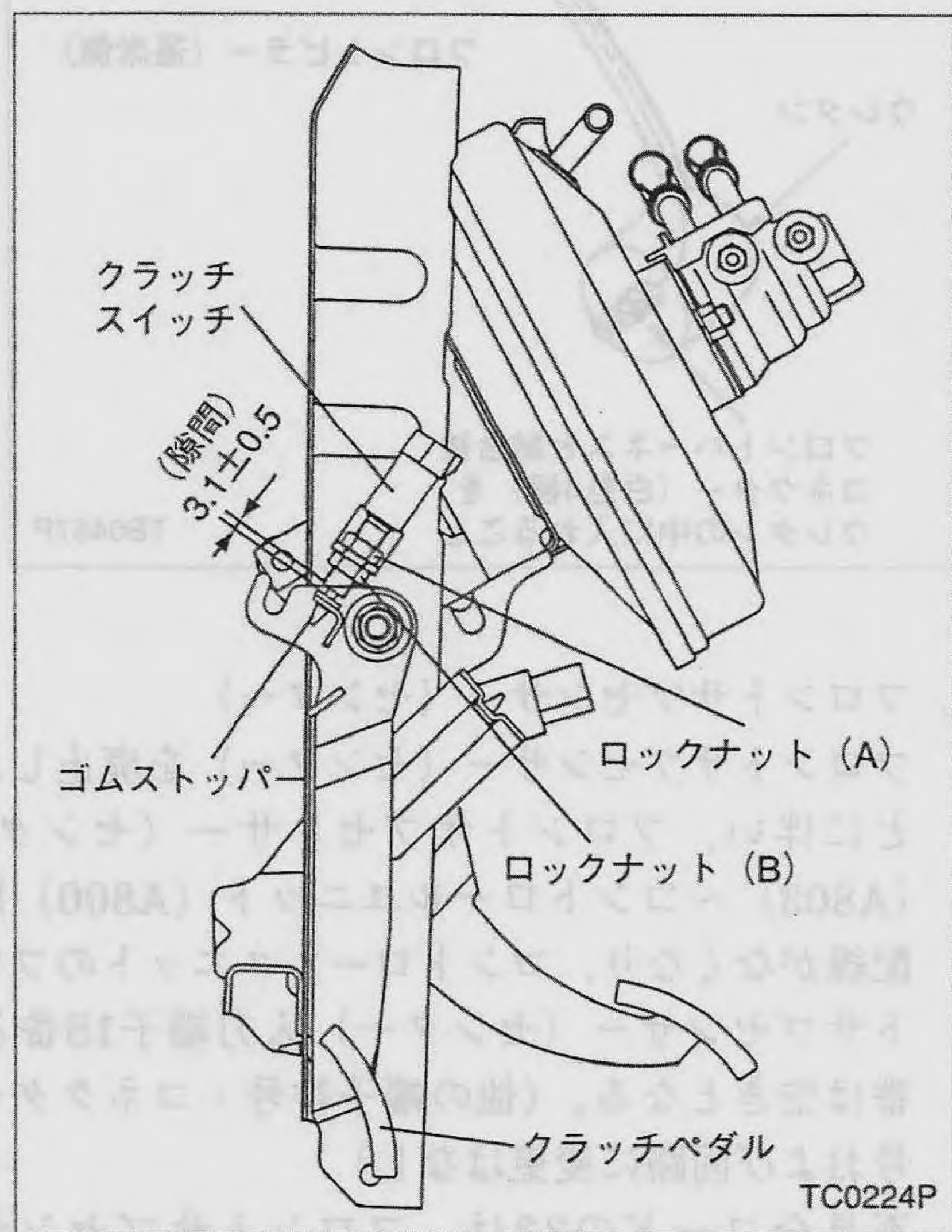
〔1〕ペダル&ケーブルシステム

(1) クラッチスイッチ作動確認

1. クラッチペダルを踏まないとき、エンジンが始動しないことを確認する。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込んだとき、エンジンが始動することを確認する。
3. 上記の確認で異常のある場合は、クラッチスイッチのON/OFFを点検する。

(2) クラッチスイッチの調整

1. クラッチスイッチのロックナット (A), (B) を緩め、クラッチペダルをいっぱい踏み込み、クラッチスイッチねじ部先端とクラッチペダルゴムストッパーとの隙間が 3.1 ± 0.5 mmになるように調整する。



2. クラッチスイッチを 1. の状態でロックナット (A) により固定する。

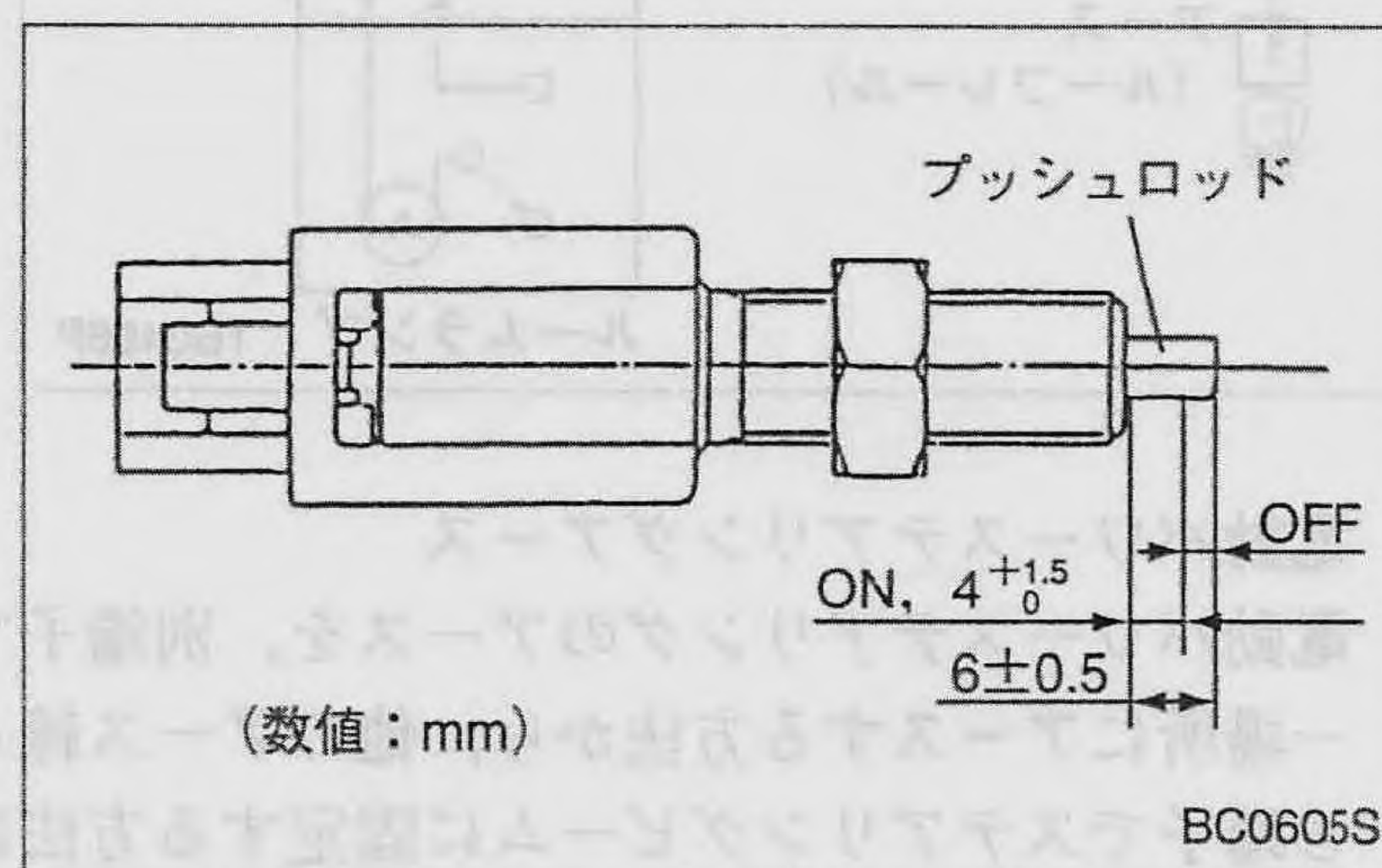
T $8 \pm 2 \text{ N} \cdot \text{m}$ $\{0.8 \pm 0.2 \text{ kgf} \cdot \text{m}\}$

3. クラッチペダルの遊びおよびクラッチスイッチの作動を確認する。

(3) クラッチスイッチ点検

1. クラッチスイッチのプッシュロッドがスムーズに作動するか点検する。
2. クラッチスイッチのON/OFF点検
コネクター端子にサーキットテスターを接続し、ON/OFFしたときの導通を点検する。

スイッチ	導 通
ON	あり
OFF	なし



3. ゴムストッパーの損傷を点検する。

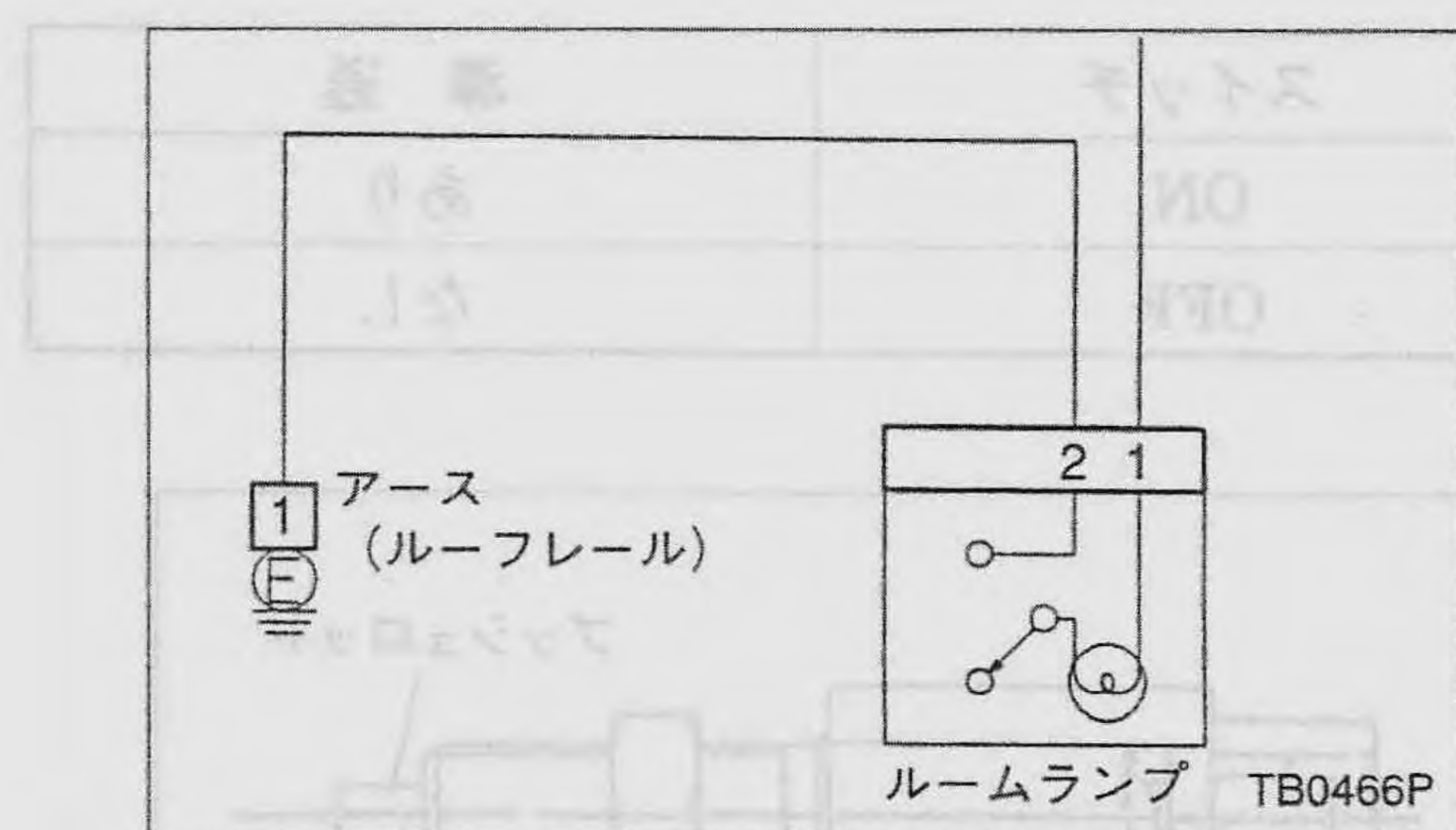
〔1〕ワイヤリングハーネス

整備要領

(1) アース

1. ルームランプアース

ルームランプのアース位置を、室内から、フロントルーフレールに変更した。(タッピングビス止め)



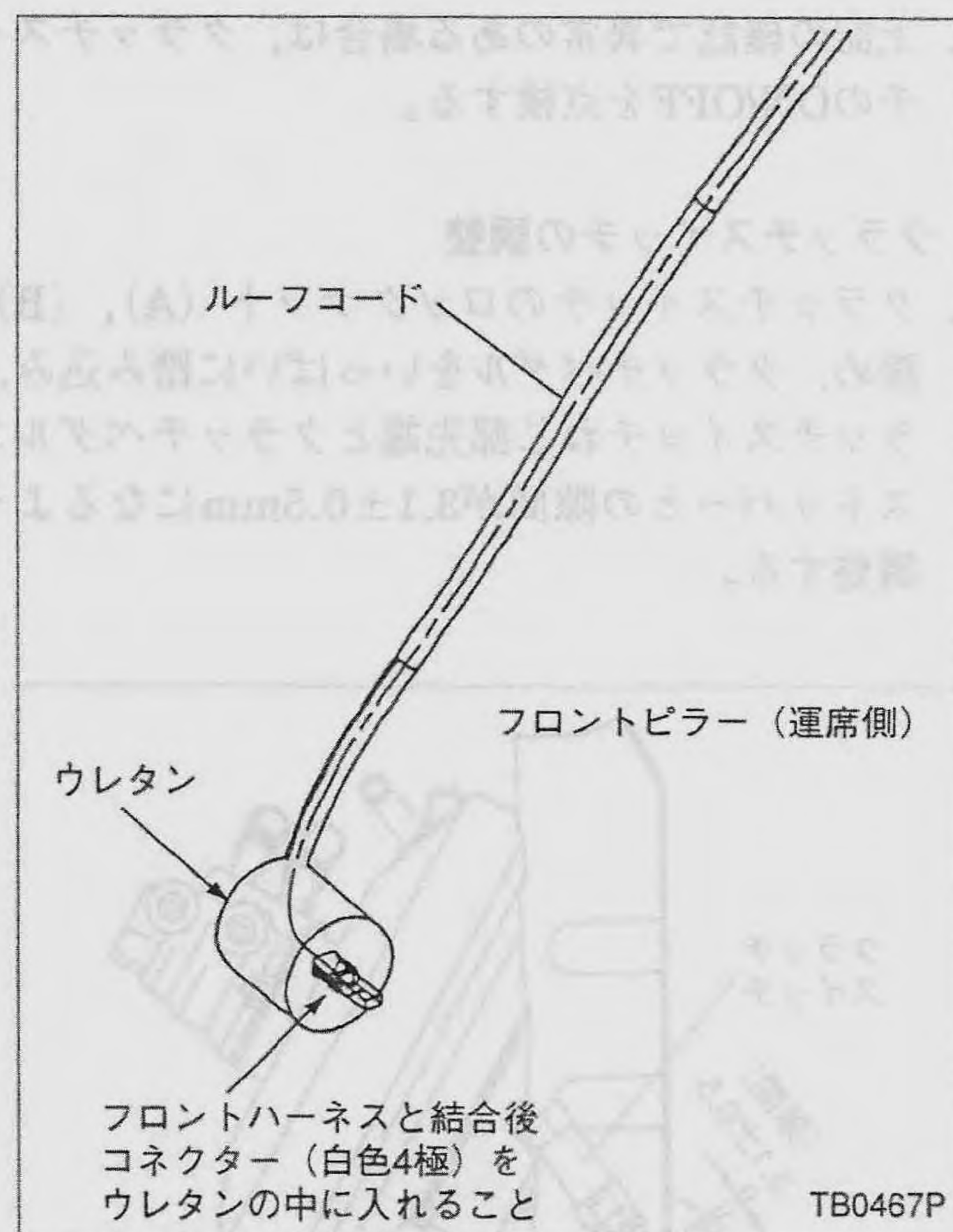
2. 電動パワーステアリングアース

電動パワーステアリングのアースを、別端子で同一場所にアースする方法から、他のアース線と同じ端子でステアリングビームに固定する方法に変更した。

(2) コネクター

1. ルーフコードコネクター

雑音対策のため、ルーフコードとフロントハーネスの結合コネクター(白色4極)を結合後、ウレタンの中に入れること。



2. フロントサブセンサー (センター)

フロントサブセンサー (センター) を廃止したことに伴い、フロントサブセンサー (センター) (A803) ~ コントロールユニット (A800) 間の配線がなくなり、コントロールユニットのフロントサブセンサー (センター) 入力端子18番と19番は空きとなる。(他の端子番号・コネクター番号および回路に変更はなし)

不具合コードの33は、フロントサブセンサー (センター) の廃止によりなくなる。